み春野自治会たより

令和8年度
第6号
令和８年 10 月 18 日
み自発第 26－37 号

夏から続いていた長雨もようやく終盤を迎え、先週あたりから秋晴れの日も多くなって日中に気温の高い日も増えてきました。朝晩と昼間の寒暖差が大きくなってきています。出掛ける際は服装でうまく調節して体調管理に留意しましょう。
今年はさらに例年より早い時期からインフルエンザが増加していますので、手洗い・咳エチケット等の予防も心掛けましょう。
9/27(日)には大勢の皆さんに参集いただいて「敬老の集い」を開催しました。当日は飲食しながらの歓談やゲーム等で盛り上がりました。これからもお元気で健やかな毎日をお過ごしください。
先週の3連休は好天秋晴れで 10/11(日)に実施された「横戸地区町民体育祭」も多くの参加を得て大いに盛り上がりました。
参加いただいた皆さん、お疲れさまでした。
来週 10/25(日)には「花見川区民まつり」が花島公園にて開催されます。太鼓・ダンス・消防音楽隊等のステージイベントや模擬店等があり、み春野からも出店、会場協力員が参加します。シャトルバスも運行されますので、秋の一日を一緒に楽しみましょう！
※無料バス ⇒ み春野 ⇒花島公園 9:05 /10:30 /12:40
花島公園 ⇒み春野 12:00 /14:10 /15:30







【 各部からのお知らせ 】

1. 総務書記部より

≪集会所の利用実績≫

7～9月の集会所の利用実績は以下の通りでした。インフルエンザの流行が例年より早まっています。換気を十分にしながら集会所をご利用ください。

サークル・団体	回数	サークル・団体	回数	サークル・団体	回数
シニア	11	レガート	7	太鼓※太鼓出し入れのみ含む	16
なでしこ	4	社協	2	自治会、個人、その他	25
				7～9 月合計	65

2. 防犯交通安全部より

≪科学が証明！「地域の絆」が防犯力を高める≫

犯罪を防ぐ鍵は「不審者の警戒」だけではありません。近年の環境犯罪学では、地域の緩やかなつながり（ソーシャル・キャピタル）こそが、強力な防犯インフラになることが統計的に実証されています。
研究で特に注目されるのが、地域で協力し合える信頼関係を示す「集合的効力感」という概念です。警察庁等の調査によると、自主防犯活動や「顔の見える関係」が存在する地域では、侵入窃盗の発生率が約 3 割以上低く、住民の防犯不安感も大幅に低いことが分かっています。さらに、防犯カメラ等の設備（ハード）と住民の防犯意識（ソフト）が連動した自治体では、刑法犯認知件数が約 4 割減少したという実証データもあります。
こうした研究成果を活かした実践例が「ながら防犯」です。特別なパトロールを行うのではなく、犬の散歩や買い物、ガーデニングといった日常行動に「防犯の視点」をプラスします。登下校時の挨拶や手入れ中の目配りは、犯罪者に「隙がない」と感じさせ、犯行の機会を物理的・心理的に奪う確実な手立てとなります。
実践にあたっての留意点は 3 つあります。

1. 持続可能性を最優先にする
特定の役割に負担が偏る活動は途切れがちです。「ついで」にできる日常行動をベースにし、誰もが無理なく「ながら」で見守りをしましょう。
2. 「監視」ではなく「自然な気遣い」を意識する
過剰な警戒や監視は地域の雰囲気を硬化させます。目的はあくまで「顔の見える安心な環境づくり」に置くのが効果的です。皆さんお互い顔見知りでなくても挨拶をしてみましょう。
3. 情報共有でハードとソフトを連動させる
防犯設備だけに頼らず、危険箇所の情報や不審者情報を広報紙やデジタルツールでタイムリーに共有し、地域全体の警戒度を揃えましょう。
科学的な根拠が示す通り、毎日の挨拶と少しの気配りという「地域の絆」こそが、街の安全を守る最も確実な基盤となる事を知っておきましょう。

3. 会計部より

≪赤い羽根共同募金運動のお知らせと、自治会集金の取り止めについて≫
「赤い羽根共同募金運動」が 10 月 1 日からスタートします。
当自治会ではこれまで、下期の自治会費集金に合わせて募金の集金を行なっておりました。今年度から、班長・副班長さんの負担低減のため、自治会費の集金を春の年 1 回に変更しております。このため「赤い羽根共同募金」については、案内を回覧するにとどめ、自治会としての集金は行いません。
ご了承お願いいたします。

4. 防災部より

≪レーダーチャートで見る“み春野の防災力”≫
～我が家を守る「在宅避難」のススメ～
み春野の地域防災力を「共助・ソフト面・ハード面・自助・公助連携」の 5 つの指標で分析しました。
分析の結果、み春野の最大の強みは「共助（4.8）」と「ソフト面（4.5）」です。5 年連続のスタンドパイプ放水訓練や福祉施設「高志会」との連携協定、アクションカード配備など、地域の組織力や実動体制は非常に高く評価されています。また、全戸が新耐震基準の頑丈な建物である「ハード面（4.2）」も強大な資産です。



評価領域	スコア	主な評価要素と実態
共助（地域力）	4.8	自治会・自主防の一体運用、福祉施設「高志会」との協定、安否確認ツールの高い運用力。
ソフト面（訓練等）	4.5	5年連続スタンドパイプ訓練、初動アクションカード配備、独自の詳細マニュアル周知。
ハード面（住環境）	4.2	新耐震100%の戸建て群、無電線化、緑地内の非常用井戸（発電機付）。アクセス路寸断が弱点。
自助（家庭備え）	3.0	飲料水・コンロ備蓄率は高水準（>85%）。携帯トイレ未準備（48.7%）と感震ブレーカー未設置が課題。
公助連携・避難所	2.5	開発誘導区域外で公助到達に>72時間。指定避難所（こてはし台小）の実質パンク（600人限界）リスク。

一方、課題として浮き彫りになったのが「公助連携（2.5）」の低さです。アクセス路の途絶による約 2,500 人の孤立リスクに加え、指定避難所の「こてはし台小学校」は周辺地域からの避難者殺到で初期段階に実質パンクとなる予測（シミュレーション結果）が示されており、行政の支援や避難所に頼る避難は現実的ではありません。
だからこそ重要なのが、「自助（3.0）」の強化による「在宅避難の徹底」です。アンケートでは約半数（48.7%）の世帯で携帯トイレが未準備でした。断水・下水道破損時に自宅で衛生的に過ごすため、「1 人 1 日 5 回×2 週間分（約 70 回/人）の携帯トイレ」の備蓄と、通電火災を防ぐ感震ブレーカーの設置を急ぎましょう。
先日の安否確認訓練では、全体世帯の 58%にご協力いただきました。半数超の確認が速やかに行えた一方、残り 42%の確認に時間を要する実態も見えました。「我が家での備え」と「迅速な安否表示」こそが、公助の届かない数日間を全員で生き抜く鍵です。今週末に備蓄を点検し、次回の訓練にもぜひご協力をお願いいたします。

5. その他

≪ふれあいサロン “ふらぁっとみ春野”≫ 地域に住む皆んなの交流の場、仲間づくりの場です
- 毎月第2土曜日 10:00～11:30
  参加費＠100 円（飲み物・茶菓子代等に充当）とマイカップ持参でお願いします。
- 皆さんと一緒にお話を楽しんだり、健康づくりやリクリエーション、情報交換等の場になればと思います。

≪シニアリーダー体操≫ 楽しみながら転倒＆認知機能低下を防ぐ運動を行ないます
- 毎月第2・4水曜日 10:00～11:00
  参加費無料ですが、運動のできる服装・靴と飲み物持参でお願いします。